



吉子川



令和7年12月4日(木)
学校だより NO. 56
中島村立吉子川小学校
発行責任者 校長 木戸美智子

【めざす児童像】

- あかるく たくましい子ども (体)
- やさしく おもしろいのある子ども (徳)
- めあてをもって がんばる子ども (知)

【よしコッピ】

吉子川小学校
のあやめの花に
住む小鳥の妖精

今月のいきいき中島っ子 学びの
十か条 (12月)

説明は筋道立てて伝わるように
相手意識でみがく表現力

◇ 読書賞64名になりました! ~ 読破率 61.0% ~ ◇



読書賞受賞者は64名。読破率は61.0%。とうとう6割突破です!

◇ 1か月間のお昼の放送 ~ 校長講話 ~ ◇

10月31日(金)から12月3日(水)まで18回、お昼の放送の時間を使って、子どもたちに校長講話を行ってきました。全校の心をそろえることが目的です。5分間のお話ですので、低学年の子どもたちには聞き取りが難しかったかも知れませんが、低学年の子には、話し手が目の前にいることやその表情が、聞き取りやすさにつながるからです。

ところが、自慢のあやめっ子たちは、私が「挨拶」について話をした後には、明らかに「挨拶」が上手になるんです。また、先生という職業について話したときには、担任の先生に「先生えらかったんだね。頑張って先生になったんだね」と言ってくれたそうです。3年生です。給食を食べながらですが、私の話を音として聞き流すのではなく、言葉として聞いているし、心で受け止めてくれているのです。とてもうれしく感じました。

18回にわたる校長講話のテーマは「自己肯定感と自己有用感」でした。今年度、吉子川小学校で大事にしていることです。「自分は役に立っている」という「自己有用感」を育むには、ご家庭での「お手伝い」も有効です。多くの子どもたちが体験でき、家族や社会の一員として、自分の役割を自覚することができます。学校でも、様々な活動や係などの役割分担を通じ、「自己有用感」を育み、自分に自信をもつことで、「自律心」(自分自身でたてた規範によって行動できる心)の醸成につなげたいと思います。

一方で、ネット社会とも言われる現代は、ちまたに様々な情報があふれています。しかし、すべてが正しい情報とは限りません。SNS等での情報はフェイクと言われる「うそ」もまことしやかに拡散される時代です。また情報の「正しさ」は状況や立場によっても変わります。子供たちの単純な言い争いから、国同士の争いまで、「正しさ」を主張し合うことから始まります。

そんな情報化社会の中では、自分や相手の立場を認識し、自分なりに「選択する力」が必要とされています。選択することは自己有用感を高める重要な要素です。選択を通じて自分の意志を表現し、結果に責任をもつことで、自己有用感が育まれます。選択が失敗することもあります。しかし、それであきらめるのではなく、よい経験として、また新たな選択のできる子どもたちを育みたいと考えます。選択する力は経験によって成熟していくからです。授業の中でも、友達の意見と自分の意見を比較しながら、より良い選択ができる学び合いの場を設けています。調整力、協力性といった非認知能力を高めるにも、多くの情報の中から、有効な選択をする力が大切です。吉子川小でも教育活動の中で、様々な選択場面を設定し、「選択する力」を高める学びを進めていきたいと思っています。